

## 那珂市で開催された 「サツマイモの神様 白土松吉展」

まっさき ちひろ  
先崎 千尋

昨年10月25日から11月30日まで、那珂市歴史民俗資料館で企画展「サツマイモの神様白土松吉展」が開催された。

同資料館が今回、松吉展を企画したのは、戦前、県内でサツマイモ増産や灌漑事業などで活躍した松吉のことが市内だけでなく農業関係者からも忘れられており、名誉市民になったことを契機に、埋もれていた松吉の業績を顕彰し、多くの人に知ってもらおうという趣旨だ。

展示は、松吉の生い立ちから亡くなるまでの一生を軸に、「松吉とサツマイモ」、「甘藷農法の発明」、「白土甘藷研究所の設立」、「小場江堰の改修」などから構成されており、年表やサツマイモの模型、増収法の具体的資料、統計、受賞した黄綬褒章、生家やサツマイモの収穫作業姿、墓地、祀られている「ほしいも神社」の写真などから成る。

松吉是那珂郡農会技手としての業務をこなす中、サツマイモの千貫（3750<sup>キ</sup>匁）取りに挑戦し、夏はサツマイモ畑に寝るなど寝食を忘れて研究を重ね、約30年かけて、とうとう千貫取りの技術を確立した。当時のサツマイモの反収は300<sup>キ</sup>匁程度だったから、松吉は周りから「ほらふき松つつあん」と呼ばれていた。

現在の農林統計でも2024年の全国平均の反収は2500<sup>キ</sup>匁（600貫）だから、松吉の技



会場に展示された千貫取りのサツマイモやブランコ植えのサツマイモの模型など

術はすばらしいものだった。白土式甘藷栽培法とは、保温によるイモの苗床の考案。良い苗を作る（長さ1尺以上、12節以上）。肥料は植える前に施肥。高畝（うね）。苗のブランコ植えなど。

会場では、松吉の普段着（農作業姿）の写真に合わせて、その人となりで紹介された。「頭脳明晰。深いサツマイモ愛。真っ黒な手。お酒が大好き。歯は一本もなし。大臣でも知事でも君づけ（付度なし）。若者より体力あり。おしゃれに無頓着。いつも裸足（はだし）」など。

企画展を担当した同館の玉井千尋さんは「調べていくと、松吉は地味で偉ぶらない、人間味がある身近な人だと思った。いもづる式にいろいろなことが分かった。松吉は自分の時間すべてをサツマイモに費やした。干し芋みたいに噛めば噛むほど味が出てきて、うまみが分かってくる。この展示を多くの人に見てもらいたい」と語っていた。